紙さんてどんな人

大門参院議員が聞く【中】

おじぎの違いと「一期一会」

大門　紙さんは二〇〇一年の初当選まで、十五年間を候補者としてやってきました。イヤになったことはないですか？

紙　ないです。参院の比例代表の候補でしたから、日本共産党のことをいかに知ってもらうか、得票を上積みしていくことが楽しみで楽しくやってきました。得票が伸びて「次こそは必ず」と思うんですけど、そのたびに選挙制度が変わって、振り回されたということはありましたが。

初質問

大門　国会にきてみてどうでしたか。

紙　初質問（二〇〇一年九月）は国内で発生したBSE（牛海綿状脳症）問題でした。質問準備で、テレビや新聞で疑問になっていることを聞こうと農水省に事前に聞いたら、いかにも非常識であるかのように「そんなことを聞くのですか」という。私は「世間の疑問だから聞きます」と言って、委員会で質問したら、農水省はちゃんと調べていました。

その時から国民の疑問をウヤムヤにしようとする官僚の体質を感じ、これに乗せられたらいけないなと思ったものです。質問は、今でもですが、緊張します。短い質問でものどがカラカラになります。

大門　北関東のイメージはどうですか。僕が三年前に聞かれた時は「温泉とあんこう鍋」と答えましたけど。

からっ風

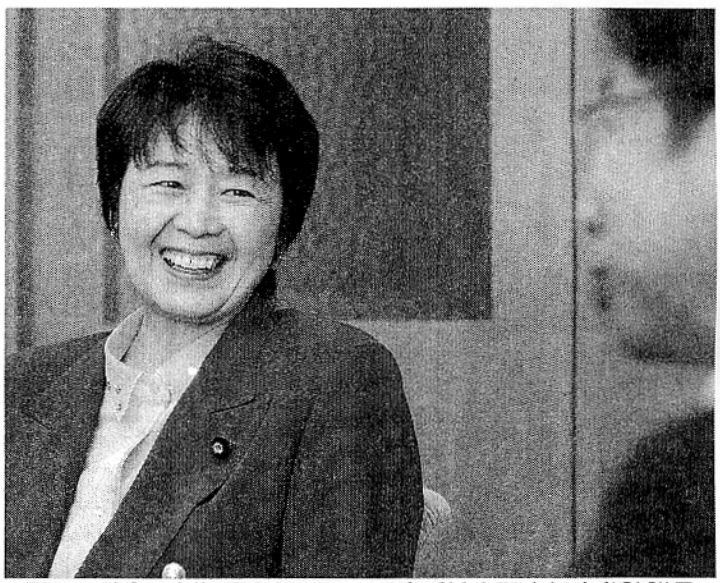
紙　からっ風というんですか、風が強いなあと思いました。でも人の心が温かい。この前、群馬県伊勢崎市に行ったら市議の方から私の写真入りバッジをいただきました。どこにいっても迎えてくれるみなさんのまなざしが温かい。それにホッとするような風景がいっぱいあります。

大門　北関東でも、つめのあかをせんじて飲みたくなるような地方議員の地道な活動があります。

紙　頭が下がる思いでいっぱいです。私の活動はそういう人に支えられてきたことを実感しています。

一九九八年の参院選では北海道で四人の道議が代理弁士として方々で訴えてまわっていただきました。相談にも乗ってくださったり、本当にお世話になりました。住民の相談を受けたり政策をつくったり…、活動は地味なんだけども自然と人が集まってくるような魅力をもつ日本共産党の地方議員の方たち。私もそういう風になりたいと思っています。

大門　座右の銘はありますか。



質問に答える紙智子参院議員。聞き手は大門実紀史参院議員

自然と

紙　昔、候補者のとき、「おじぎの仕方が違う」といわれたことがありました。いわれた当初は「そうかな」という思いもありました。でもあるとき、事の意味を知る機会があったんです。

北海道で吹雪の日に演説会をすることがありました。外は吹雪なのに足の悪い方やお年寄りの方がきてくださるんですよ。会場にいた現地の担当者が、きている方を指して「あの人は去年、子どもを亡くして、最近ようやく元気になって話を聞きにきてくれたんだ」と教えてくれたんです。

私は「よくこんな寒い中、足を運んでくださりました」という気持ちになり、自然と頭が下がりました。それからです。こられた方と気持ちが通う話ができるようにと、どんな人が話を聞きにきてくれるのか事前に聞くようになったのは。座右の銘をいうとすれば「一期一会」でしょうか。

（つづく）